令和４年度　第１版

長崎県ＰＴＡ研究大会マニュアル

長崎県ＰＴＡ連合会

～　目　次　～

第１章　提言単位ＰＴＡの研究の進め方　原稿のまとめ方

Ⅰ　研究大会の基本理念　……1

Ⅱ　研究大会の意義　……1

Ⅲ　時代に合ったＰＴＡ活動を進める３つの分野　……1

Ⅳ　単位ＰＴＡにおける研究の進め方　……4
１　目標と手立て
２　研究の進め方（目標、手立ての実践、検証、その後の手立て）
３　研究の進め方のモデル図
４　単位ＰＴＡでの研究の取組と３分野の関係例

Ⅴ　大会誌原稿のまとめ方　……8
１　大会誌原稿の構成
２　具体的な書き方
３　活動の記録と写真

第２章　研究大会へ向けての単Ｐ、郡市Ｐ連の活動マニュアル

Ⅰ　大会誌原稿の様式について　……13

Ⅱ　研究大会に向けての年度ごとの大まかなスケジュール（参考例）……14

Ⅲ　提言発表単位ＰＴＡへの郡市町Ｐ連の支援　……16
１　郡市町Ｐ連での提言発表単位ＰＴＡへの支援
２　壱岐市ＰＴＡ連合会の提言発表単位ＰＴＡへの支援例

Ⅳ　大会規模、運営について　……19
１　大会の規模
２　大会宣言に替わる県Ｐ連重点活動目標等の大会誌掲載
３　来賓、レセプション
４　宿泊を伴う県Ｐ研究大会の配慮
５　宿泊手配について
６　開会行事について

第３章　大会誌に掲載された提言発表例

Ⅰ　県Ｐ研究大会誌、九Ｐ研究大会誌からの例　……22
１　諫早市立飯盛東小学校ＰＴＡ
２　波佐見町立波佐見中学校ＰＴＡ
３　諫早市立喜々津小学校ＰＴＡ
４　雲仙市立南串第一小学校育友会
５　諫早市立長田中学校ＰＴＡ

第１章　提言単位ＰＴＡの研究の進め方
原稿のまとめ方

Ⅰ　研究大会の基本理念

ＰＴＡは保護者と教職員が等しく会員として手を携え、子どもの健全育成という目的に向かって、学び合い、つながり合い、分かり合う社会教育関係団体です。

長崎県ＰＴＡ研究大会（以下県Ｐ研究大会）は、県内各地から会員がつどい、つながり合って学びを深める研修の場として筆頭に挙げられる大切な活動です。

Ⅱ　研究大会の意義

県Ｐ連会員がつながり合い学びを深めるためには、時代の流れに応じて子どもの健全育成を前提としたＰＴＡの活動を工夫していくことが期待されます。研究大会は提言ＰＴＡが、自分たちの取り組んだ手立て（方法）とその工夫したところを紹介し、参加者全員で意見交換しながらより良い手立て（方法）と工夫を見出していくことにその意義があります。

Ⅲ　時代に合ったＰＴＡ活動を進める３つの分野

九Ｐブロック研究大会は細かく５つの分科会に分かれて提言発表をしますが、長崎県ＰＴＡ研究大会は、大きく３つの分野に統合して提言するようになりました。

細かいくくりより大きなくくりの方が単位ＰＴＡの裁量範囲が広がり、研究活動に取り組みやすくなります。分野は次の３つになりました。

１　大人のつながりを深める分野
２　大人の学びを深める分野
３　子どもの健やかな成長を支援する分野

それでは、分野ごとに詳しく見ていきましょう。

１　大人のつながりを深める分野

多くの会員が意欲的に活動に参加するように、ＰＴＡの組織を強化したり、作り変えたり、あるいは活動内容を変えたりした工夫を紹介する分野です。

もちろん、自治会や他の団体とのつながりを深める工夫も大切なことです。

ＰＴＡへの加入は任意であることが浸透している現在では、活動に積極的に参加してもらうことへの手立て（方法）の工夫が必要になっています。

工夫の基本は、まず保護者・教職員にＰＴＡの活動について理解を深めてもらうことです。

家庭生活を切り盛りすることで手いっぱいの保護者・教職員に「何の目的で、この活動をするのか？」「この、活動は本当に必要なのか、役立っているのか？」といった疑問にしっかり答えて、納得したうえで会員として活動してもらわなくてはなりません。

役員を決める作業一つを例にとっても、「この学年から〇〇部に〇〇人を出してもらいます」といった人数ありきの決め方では、保護者会員の不平や不満が噴出する場合があります。

ですからＰＴＡにはどのような専門部が必要なのか？という根本的な問いも工夫の対象になるのです。多くのＰＴＡでは、組織づくりや役員決めに工夫を凝らしています。それらの工夫をお互いに紹介し合って、楽しく明るいＰＴＡを目指しましょう。

それが、下記の手立ての例①となるわけです。

【手立ての例】

①単位ＰＴＡ内のつながりについて、組織を強化する工夫、組織を再編する工夫

②ＰＴＡの活動（※１）について、会員や地域の皆さんに理解を深めてもらうために広報活動を充実させる工夫

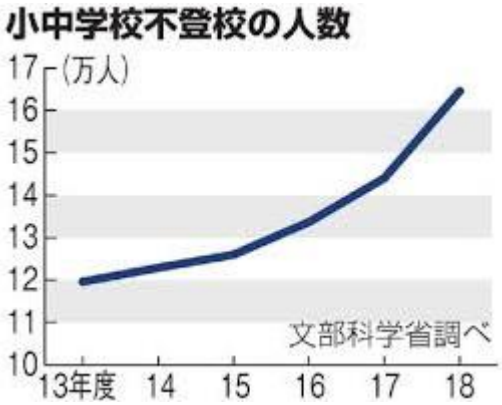
③他組織とのつながりでは、地域と協働する手立て（方法）の工夫、町Ｐ連・郡Ｐ連・市Ｐ連と協働する手立て（方法）の工夫、教育行政と連携する工夫

２　大人の学びを深める分野

ＰＴＡ会員が子どもだった頃に親から受けた伝統的な子育て、それを参考にすれば、我が子を育てられる時代は終わりました。子育てする大人には、新しい学びが必要なのです。

ＰＴＡ会員世代が過ごした子ども時代と今とでは、大きく社会が変化しています。

一例として不登校の例で考えてみましょう。不登校の子どもは、かつては学校嫌いあるいは登校拒否と呼ばれ、普通の子は学校に行けるのに、学校に行かない（変わった）子のように見られていた時代がありました。



出典：朝日新聞デジタル版

しかし令和元年（2019 年）１０月に出された文部科学省の通知では、平成４年に出された「登校拒否問題への対応について」の通知が廃止されるなど、文部科学省の姿勢が大きく変わっています。

平成４年といえば、このマニュアルを読んでいる会員が小中学生だった頃の話です。

この頃は、登校拒否の子を登校させることが大きな目標であり、克服すべき課題でした。

新しい通知では「不登校児童生徒への支援は、「学校に登校する」という結果のみを目標にするのではなく‥‥（以下は省略）」と、大きく変わったのです。さらに、「家庭教育は全ての教育の出発点であり‥‥（以下省略）」と家庭教育の重要性も書かれています。

家庭教育とＰＴＡの関わりについて、長崎県ＰＴＡ連合会第３７代会長の山本道雄は、講演の中で次のように説明しています。

「『学校教育法』『社会教育法』はありますが、『家庭教育法』はありません。しかし、家庭教育を学ぶ場があります。それが、ＰＴＡです」

保護者会員の多くは、教育学や教育心理学をあらかじめ学ぶなどの準備を整えて子どもを授かったわけではありません。子どもを授かってはじめて、子育ての苦労と喜びを味わいながら、親（保護者）としての学びが始まるのです。先に述べたように、伝統的な子育てでは不十分なところを、おっとり刀で学びながら親（保護者）として成長していくのです。

ＰＴＡとは、教育の専門家である教職員と手を携えて、親（保護者）が家庭教育について学ぶ場なのです。

ＰＴＡ会員が、より広くより深く学ぶためには、学びの手立てを工夫しなければなりません。それらの工夫をお互いに紹介し合って、広く、深く学べるＰＴＡを目指しましょう。

それが、下記の手立ての例となるわけです。

【手立ての例】

①子どもの身体と心の成長についての学びの手立て（方法）の工夫

②子どもを取り巻く社会環境についての学びの手立て（方法）の工夫

③子どもの手本となるための大人自身の学びの手立て（方法）の工夫

④学びを実践へつなげる手立て（方法）の工夫

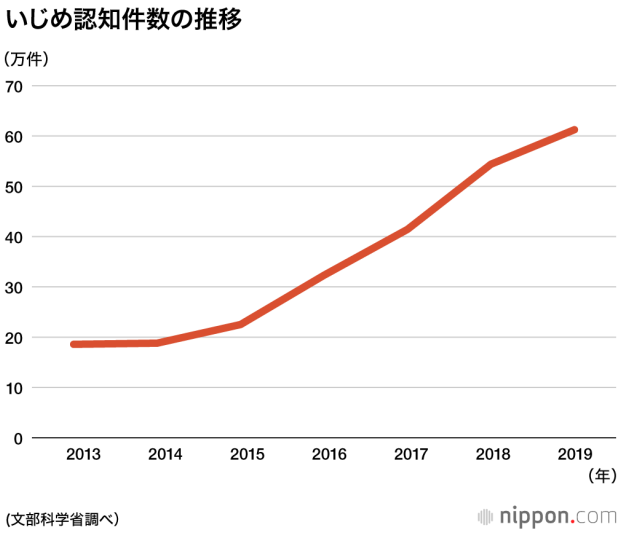
3　子どもの健やかな成長を支援する分野

小・中学校へ子どもを入学させる親が、入学を前に心配することの一つが「我が子がいじめの被害者や加害者にならないだろうか」であると言われます。

文部科学省のデータによると各学校から寄せられるいじめの認知件数はうなぎ上りに増えています。令和元年度（2019 年度）に全国の国公立私立の小中高校で認知されたいじめ件数は 61 万 2496 件です。

もちろん、件数だけがいじめの実態を表すわけではないので、いじめについては、より多くのデータから深く考えていく必要があります。

いじめは人権にかかわる重大問題であり、不登校の原因の一つにもあげられている深刻な問題です。



出典：ニッポンドットコム

そこで平成２５年（2013 年）には、いじめ防止対策推進法が施行されました。

その第四条では「児童等（※２）は、いじめを行ってはならない」と明記されています。

いじめについては、第３６代長崎県ＰＴＡ連合会会長東川勝哉は「いじめはベッドで起こっている」として、親の立ち入らない家庭内の場所と時間帯にＳＮＳ等を通じて行われているいじめの実態を取り上げ、県内のＰＴＡ会員に警鐘を鳴らしました。

先のいじめ防止対策推進法の第九条には「保護者は、子の教育について第一義的責任を有するものであって、その保護する児童等がいじめを行うことのないよう、（中略）規範意識を養うための指導その他の必要な指導を行うよう努めるものとする」と保護者の努力義務も明記されています。

子の第一義的責任を有する保護者がつながりあって、家庭教育を互いに支援しあえる場所がＰＴＡなのです。

ＰＴＡでは子どもに正しい人権感覚、愛情豊かな人間性、互いを尊重する社会性などを養うことを目指して、多くの行事を工夫しながら続けてきました。

手立てを工夫した行事が、子どもにどのようなことを身に付けさせたかをしっかり検証して、提言しましょう。

それが、下記の【手立ての例】となるわけです。

【手立ての例】

①子どもに身体を使った遊びや学びを体験させる手立て（方法）の工夫

②子どもに身につけさせたい道徳心や公共心を育む手立て（方法）の工夫

③子どもに自他を大切にする心を育むことができる手立て（方法）の工夫

言葉の説明

※１　ＰＴＡの活動とはＰＴＡ活動とＰＴＡ行事を合わせたものを指します。

（県Ｐ安全互助会の手引きを参照してください）

※２　児童等とは学校に在籍する児童または生徒を指します。

Ⅳ　単位ＰＴＡにおける研究の進め方

１　目標と手立て

県Ｐ研究大会においては、目標を達成するために工夫した手立て（方法）が役に立ったかどうかの検証結果を発表します。成果を期待して取り組んだ結果、成果が上がる場合もありますが期待したほど成果が上がらない場合もあります。

仮に成果が上がらない場合は、さらにどのような手立て（方法）の工夫が必要なのか？と新たな工夫を考えるスタートラインに立ったと考えましょう。

発表する２年前には、所属する郡市町Ｐ連において中間報告をする機会を設けるようになっていますので、仲間の温かい支援を受けて工夫を続けましょう。

２　研究の進め方（目標、手立ての実践、検証、その後の手立て）

(1) 目標を設定し、それに向かう出発点となる現状を把握します。逆にまず現状を把握して、その中から改善点を見つけて目標を設定しても良いでしょう。

(2) 目標を達成するための手立て（方法）を工夫しながら実践を進めます。

(3) 手立て（方法）が効果的な取組であったかどうかの検証をします。

(4) 検証結果をもとに、その後の手立て(方法)について、研究の方向性を考えます。

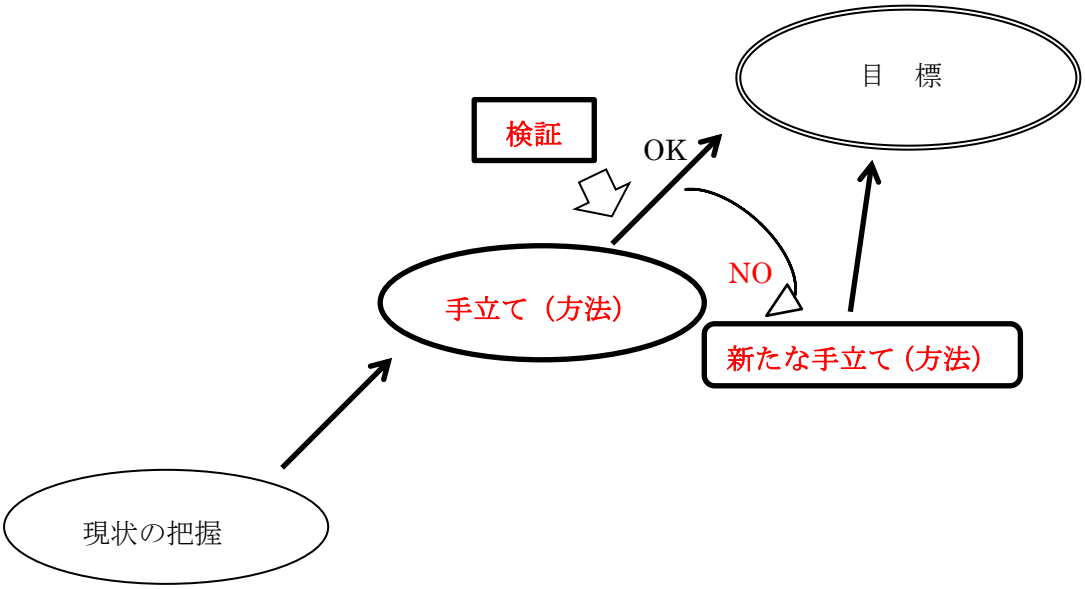
３　研究の進め方のモデル図

研究大会は、仕事や家庭の切り盛りに追われる会員が時間を割いて参加しています。

従来見られたような「春にはこのような活動をし、夏にはこのような活動をし‥‥」といった類（たぐ）いの、単なる我が単Ｐの活動自慢や活動紹介では、参加者からは「自慢話ばかりで時間のムダだった」と落胆されてしまいます。

県Ｐ研究大会においては、三つの分野の方向に沿って、手立て（方法）および手立て（方法）の工夫を提言し、質疑応答の中で参加者とともに研究を深めていきます。

研究深めるために、提言単位ＰＴＡは数年前から、年次計画を立てて手立て（方法）の工夫を試してみましょう。以下が、その概念モデル図です。


目　標
検証
OK
NO
手立て（方法）
新たな手立て（方法）
現状の把握

４　単位ＰＴＡでの研究の取組と３分野の関係例

ここでは、分野という大きな捉え方の中で、研究をどのように進めればよいかを考えます。

もともとＰＴＡの活動は、子どもを真ん中においてすべての活動が結びついています。ですから一つの活動を「組織・運営」「広報」「家庭教育」などのような細かな分け方で区切るより、目的へ向かっての迫(せま)り方が活動であると、考えた方が手立て（方法）の工夫につながるのです。

子どもを真ん中に置いた迫り方は、P. １にあるように「大人のつながりを深める分野」「大人の学びを深める分野」「子どもの健やかな成長を支援する分野」の三つの分野です。

それでは提言発表することになっている単位ＰＴＡは、それぞれの分野で、どのように研究の目標を設定し、目標に迫るための手立て（方法）の工夫をどうすればよいのでしょうか？

ある単位ＰＴＡが「私たちは２年かけて、子どものスマホ・タブレットの使い方について考えてみよう」と計画したと仮定して分野ごとの迫り方を考えてみましょう。

以下に三つの分野からの研究の進め方の例を挙げてみます。

⑴　「大人のつながりを深める分野」から目標を設定し研究を進める例

（目標）「子どものスマホ・タブレットについて考えるために、大人のつながりを深める」

※この目標が研究テーマになります

（現状）スマホ・タブレットに関する研修会を開いても、参加する顔ぶれが役員ばかりだ
アンケートでは、スマホ・タブレットの研修会への会員の参加率は２０％だ

（方法）研修会への参加率を上げるために、広報活動を工夫してみよう
広報委員会を強化してみよう
研修会の参加率を上げるために、地域公民館で細やかに研修会を開く工夫をしてみよう
生活委員会と研修委員会を統合して動きやすくしてみよう

（検証）広報紙の記事に好感を持つ会員の割合は変化が無かった
アンケート結果では役員以外の参加者が増えた
研修会への参加率が３５％にまでアップし、好評であった

（今後）広報紙の紙面にＰＴＡ活動の紹介記事が足りなかったので、増やしたい
地域公民館を会場にして休日や夜に集まりやすい研修会を続けたい

このように、「つながりを深める」という分野で、ＰＴＡのあらゆる専門部が結びついて研究を進めましょう。検証ではアンケート結果などを使って、客観的に検証しましょう。

⑵　「大人の学びを深める分野」から目標を設定し研究を進める例

（目標）「大人自らが家庭においてのスマホ・タブレット使用の模範となれるような知識と行動力を身に付けよう」

※この目標がテーマになります

（現状）子どもには厳しく言うが、大人も食事時にスマホを見ている人が６０％だ
子どもはルールを守る必要があります。大人と子どもは別だと力で押しつけるのではなく、ていねいに説明している大人は２０％だ

（工夫）子どもが利用しているスマホ・タブレットの世界の現状を、大人がきちんと知る研修会を開いてみよう

研修委員会と広報委員会が連携して研修会への参加呼びかけを強化してみよう（参加意欲が湧くようなチラシを作ってみよう）

スマホ・タブレットの使用について「〇〇中ＰＴＡ大人のルール」を作って、大人が手本を示す試みを広げよう

会員の関心を高めるために、教養委員会が「スマホ・タブレット大人のルール」についての意見を募る企画を立ててみよう

（検証）参加者が増えた。理由を聞いたところ、「チラシを見て参加」が多かった

「大人のルール」を守っている家庭は３０％であった

（今後）スマホ・タブレットの世界の現状を大人が理解し、家庭で使い方の手本となるように心掛けた。その結果、スマホ依存にならないか？と心配していた子どもたちがスマホを手にする時間が減ったという家庭が増えた

ただ「スマホ・タブレット大人のルール」が窮屈だという意見があるので、今後は実情にあったルールに改良していきたい

このように、「大人の学びを深める」という分野で、ＰＴＡのあらゆる専門部が結びついて研究を進めましょう。検証ではアンケート結果などを使って、客観的に検証しましょう。

⑶ 「子どもの健やかな成長を支援する分野」から目標を設定し研究を進める例

（目標）「人権を守る立場から、スマホ・タブレットを正しく使える子どもを育てよう」

※この目標がテーマになります

（現状）メールなどの書き込みで傷ついたと回答した子どもが６０％だ

メールの書き込みでの悩みを一人で抱え込んでいる子どもが３０％だ

（工夫）人権を守る立場から、教養委員会でコミュニケーションを考えるグループワークを開こう

広報委員会がスマホ・タブレットについて標語コンテストを開こう

執行部が学校や地域と協働して、スマホ・タブレットについて弁論大会を開こう

（検証）メールの書き込みで傷ついたと回答する子どもが３０％に減った

一人で抱え込まずに大人に相談した子どもが２０％に増えた

（今後）グループワークについては、子どもに好評なので続けたい

一人で抱え込む子どもがまだ多いので、より有効な方法や手段を見つけたい

このように、「子どもの健やかな成長を支援する」という分野で、ＰＴＡのあらゆる専門部が結びついて研究を進めましょう。検証ではアンケート結果などを使って、客観的に検証しましょう。

Ⅴ　大会誌原稿のまとめ方

１　大会誌原稿の構成

県Ｐ研究大会は、従来の細かな分科会に分かれた提言発表ではなく、３つの分野に分けて、研究に取り組みやすくしています。提言発表は、ふだんのＰＴＡ活動に工夫を加えて、その工夫が期待通りの良い結果をもたらしたか、あまり期待通りの結果ではなかったかを発表するものです。そして、その骨子となるのが大会誌原稿です。

原稿は「はじめに」「〇〇学校ＰＴＡの組織と活動」「テーマに沿った手立ての工夫とその成果」「今後の課題」「おわりに」の５段階で構成します。

２　具体的な書き方

(1) はじめに

ＰＴＡ会員の子どもが通う学校の地理的位置、学校とＰＴＡの簡単な歴史、ＰＴＡの規模（児童生徒数、ＰＴＡ会員数、学級数、年間予算等）を記述します。

表記としては、初出の場合は「〇〇学校ＰＴＡ」とし、その後は「本会」または「本ＰＴＡ」と記述します。「本校ＰＴＡ」という表記はしません。

規模の小さい単位ＰＴＡでは正会員と地域住民有志の賛助会員に分けて、財源を確保している単位ＰＴＡもみられます。その場合は、ＰＴＡを構成する会員の資格も記述すると参加者の理解を助けることにつながります。

【はじめに】の書き方例

〇〇小学校ＰＴＡは平成３年に学校新設と同時に結成された。児童数は２８０人、１世帯で１会員であり２３８世帯のうち保護者会員は２１９会員で構成されている。教職員会員は２６会員である。年間予算は約９２万円であり、すべて会員の会費で運営している。

任意加入が前提ではあるが、全保護者の加入を目指している。その手立ての一つとして、受け取りについては任意であることを事前に確認して、未加入保護者へも広報部作成の広報紙を届けている。

本会は共働きの家庭が多いので、各専門部の委員の構成人数はできるだけ少なくしている。しかしながら、広報紙を発行する広報部はなかなか人数を絞れないのが実情である。

学校と連携し、授業参観後に学級ＰＴＡを開くことにしている。多くの保護者が参加し、学級役員を中心として「しゃべり場」を設けて、子育て談議に花を咲かせている。

地域の子供会活動はＰＴＡ役員ＯＢが・ＯＧ中心となっているので、ＰＴＡとしては子どもたちの参加という形で協力し、役員としては活動していない。

【九Ｐくまもと大会波佐見町立波佐見中学校ＰＴＡの例】

波佐見町は、長崎県のほぼ中央、東彼杵郡の北部に位置し、県内で海に接しない唯一の町である。人口は約 14,500 人、地場産業の陶磁器が盛んであり国内第３位を誇る。

近年それを観光に生かし 100 万人を超す観光客が訪れる観光地となった。町と産業と人の繋がりによって、協働し更なる発展を目指す町である。

また、農業も盛んで、給食など地産地消を推進している。

波佐見中学校ＰＴＡは、くまもと大会第２分科会「家庭教育」での提言にあたり本ＰＴＡ会則の第４条「事業」に示された６つの事業のうち「会員相互の研修と親睦」と「学校教育と連携した家庭教育の充実」の２つの事業に重点を置いて実践を深めることとした。

ＰＴＡ会則と今回の提言発表を結びつけて、重点的に取り組む活動を示しています

過去の大会誌では学校の教育目標や重点目標、あるいは教育課程の特色等ばかりを詳しく記述し、ＰＴＡに関する記述が少ない学校主体の提言発表が見られました。

特に「本校は‥‥」で始まる発表は、学校の視点からの紹介となってしまいがちになるので、学校については書くときは「本校は‥‥」とは記述せず「〇〇学校は」とＰＴＡの視点から記述します。

以下は、過去に多く見られた提言の一部を加工した例です。「本校は」から始まり、学校教育のすばらしい成果並びに学校教育に対して保護者が協力的であることが学校からの視点で記述されています。

【過去の大会でしばしば見られた例】　※アンダーラインは学校からの視点

本校は市内の北東部の閑静な住宅街にある。平成３年に新設され、市内では比較的新しい学校である。児童数は２８０人で、目指す学校像「明るさ、素直さ、あいさつ日本一」の通り、地域からも児童がよくあいさつをすると評価が高い。

平成３０年から文部科学省と市教育委員会から、タブレット端末を生かした授業実践の研究指定を受け、全校一丸となって取り組んでいる。

保護者は教育に熱心で、学校には大変協力的である。共働きの家庭が多いが、授業参観は教室に入りきれないほど多くの保護者が訪れる。

さらに夏季休業中の「親子ひと汗活動」では、児童と保護者が学校遊具のペンキ塗りをしたり、校内の除草作業をしたりするなど、ＰＴＡは学校に協力的である。

(2) ○○学校ＰＴＡの組織と活動

①○○学校ＰＴＡの目的とテーマについて

ＰＴＡ会則を読み返して、会の目的と事業をしっかり押さえましょう。会の目的や事業と、研究のテーマとの関連を整理して書きます。波佐見中学校ＰＴＡは、「はじめに」で提言する九Ｐくまもと大会第２分科会との関連を明記しました。

②ＰＴＡの目的達成のための本会の組織

ＰＴＡは効率よくその目的を達成するために、組織化されていますから、その組織を分かりやすく図をもとに説明します。

③専門委員会（専門部）の活動内容

必要に応じて、専門委員会（専門部）の活動を紹介します。しかしページ数が限られていますから、提言発表の内容に関係する専門委員会（専門部）の活動以外は省略することも考えられます。

波佐見中学校ＰＴＡは、分科会討議題との関連が強い活動に絞って発表したので、広報部の活動は簡潔に記述しています。

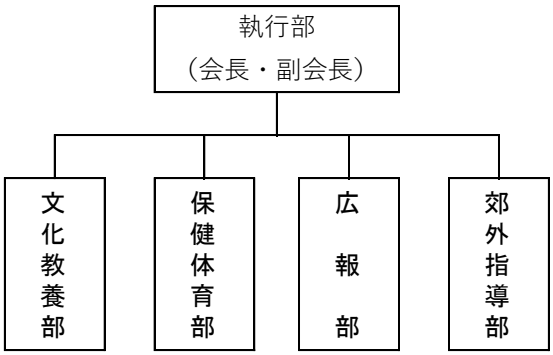
従来は、この部分に力を注ぎすぎて、提言の大半が各専門部の年間活動の紹介に終わっている発表がしばしば見られました。研究をどのように進めたかが分かるように研究推進の視点から軽重をつけて紹介します。

【九Ｐくまもと大会波佐見町立波佐見中学校ＰＴＡの例】

２　波佐見中学校ＰＴＡ活動の現状

大会誌のままの記述です
今後は「本校」の表記はしません

保護者はＰＴＡ活動並びに学校教育活動に大変協力的である。保護者全員がＰＴＡへ入会するとともに、ＰＴＡ行事や学校行事へ積極的に参加する。研究にあたっては、専門部組織がそれぞれ中心となって企画運営を行った。なお専門部は、文化教養部、保健体育部、広報部、郊外指導部に分かれ活動を行っている。



(3) テーマにそった工夫とその成果

①ＰＴＡ活動の中には長年続いている伝統的な活動も多くあります。その場合は、研究テーマに沿って、目標に達する手立て（方法）の工夫を述べるようにします。

②その工夫が有効であったか、アンケートや活動の後の感想を集約して具体的な成果を示します。もちろん有効でなかったという評価もあり得ます。

③「有効でなかった」という評価も大切な評価です。有効でなかった場合は、課題として次の手立てを工夫する材料とします。

【九Ｐくまもと大会波佐見町立波佐見中学校ＰＴＡの例】

（２）地場産業を活かした、文化教育活動

「波佐見焼を活かした、地域の人たちと生徒たちのコミュニケーション」

①　実践内容

やきもの文化体験は文化教養部が中心となって、学校の総合的な学習の時間としっかり連携した体験活動である。

波佐見町の主要産業は全国的に有名な窯業であり、保護者も窯業に関わっている者が多い。（中略）授業時間だけではなく、土曜や日曜を利用して約半年間をかけて生徒に体験をさせている。

講師人材としては、文化教養部だけではなく保護者・波佐見中教職員（中略）皆様が大変協力的に関わってくださるので、長年続くＰＴＡ事業となっている。

（中略）制作の過程で子どもが感じたことに保護者が耳を傾けるような啓発活動も併せて行った‥‥‥

主として担当する専門部が分かります。また、くまもと大会第２分科会を受けて、波佐見中ＰＴＡ会則の重点的な事業の一つ「学校教育と連携した家庭教育の充実」の取組であることが分かります。従来の活動に啓発活動という新たな工夫を加えています。

②　成果

やきもの文化体験について感想アンケートを取ったところ、自分の親の仕事の一端を知ることで、やきものを介した親子の会話が弾むようになったという感想が多くみられた。

↑

啓発活動という工夫が、有効な工夫であったことが分かります。

(4) 今後の課題

手だて（方法）が効果的であったかどうかの検証をします。検証については「好評であった」と言葉で書くだけではなく、参加者の評価を円グラフで示すなど数値を視覚的に示して参加者の理解を助けるようにします。紙面の都合で視覚的に示せない場合は、発表する際にプレゼンテーションで示します。

また検証を進める中で、手立て（方法）自体に見直すべき課題が見つかれば、それを拾い上げて「今後の課題」として記述します。できれば新たな手立て（方法）の案を提示します。

(5) おわりに

成果と課題をもとに、研究全体を振り返りながら抱負を述べます。

【九Ｐくまもと大会波佐見町立波佐見中学校ＰＴＡの例】

九州ブロックＰＴＡ研究大会くまもと大会での提言発表にあたっては、私たちは波佐見中学校ＰＴＡ会則に改めて立ち返り、先輩諸氏が築き上げた活動の意義を理解し、それらをいっそう充実させるとともに新たな活動を取り込みながら実践を重ねた。

（中略）

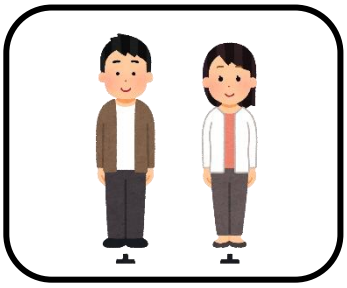
今後も全会員がＰＴＡ活動の目的をしっかり共有し、忙しい毎日の中でも充実した活動を推進していきたい。

今回の提言発表の取組とＰＴＡ会則との関連をもう一度確認しています。

３　写真の効果的な挿入について

日頃から、広報紙に掲載できるようにＰＴＡ活動の様子を写真に残しておいているＰＴＡが多いようです。そこで、広報部と打合せをして、保護者が活動している様子を中心に撮影しておくように確認しておきましょう。

広報部の活動の一環となりますし、自分の入会しているＰＴＡが県Ｐ研究大会で提言発表する予定であることを、広報紙を通して会員へ周知する資料としても利用できます。



ＰＴＡあいさつ運動

写真の下部には、理解を助けるための説明（キャプション）を付けるようにします。

なお大会誌に掲載する際には、肖像権や個人情報の保護に配慮するとともに、掲載することについて本人への許諾の確認をします。

第２章　研究大会へ向けての単Ｐ、郡市Ｐ連の活動マニュアル

Ⅰ　大会誌原稿の様式について

第〇分科会

「分野の視点にそって研究（工夫）した提言発表テーマ」を書きます
～サブテーマには、テーマに迫る手立て～を書きます

〇〇市町立〇〇小（中）学校ＰＴＡ　　会長　　〇〇　〇〇

1　はじめに
　〇〇学校ＰＴＡは‥‥
〇〇〇
＊２行開ける
「本校ＰＴＡ」という表現はしません
⬇
2　〇〇学校ＰＴＡの組織と活動状況
（1）　〇〇〇・・・・・
　~~本校ＰＴＡでは~~〇〇〇
　本会（本ＰＴＡ）では
＊１行開ける
（2）　〇〇〇・・・・・
　①　〇〇〇・・・
　　〇〇〇
　②　〇〇〇・・・
　　〇〇〇
　③
＊２行開ける

3　手立ての工夫
（1）　〇〇〇・・・・・
＊１行開ける
（2）　〇〇〇・・・・・
　①　〇〇〇・・・
　　〇〇〇
　②　〇〇〇・・・
　　ア　〇〇〇
　　イ　〇〇〇
＊２行開ける

4　今後の課題
＊２行開ける

5　おわりに

原稿作成について

1．ページの設定
　Ａ４用紙１ページに 20 字×40 行×２段の設定、余白は上下 25mm、左右 19mmとします。

2．原稿作成の詳細
(1) １ページ目の上部枠の中（７行分）に提言者のテーマと手立てを記入します。
(2) ７行目に市単Ｐ名と役職氏名を記入し、市町立学校名と提言者氏名にはルビをふります。
(3) ９行目から本文を記入します。文体は常体です。いわゆる「である」体となります。
　※１ページ目は 30 行×２段となります。
(4) 項目番号（記号）は左記のとおりに統一します。
　※アイウエの下の小項目は㋐㋑㋒㋓とします。
(5) 大きい項目と次の項目の間は、２行開けます。
(6) 写真やグラフに関してもページ内に収めます。
(7) 写真やグラフに関しては、データを別途添付してください。
(8) 提言原稿は、この様式で４ページ～６ページとします。（大会実行委員会から指示があります）
(9) 表記は、原稿表記の手引きを参照してください。

Ⅱ　研究大会に向けての年度ごとの大まかなスケジュール（参考例）

	県Ｐ連及び大会実行委員会	提言発表郡市町Ｐ連	提言発表単位ＰＴＡ
４年前	県Ｐ連会長は、定期総会要項に１０年後の大会までの分野担当郡市Ｐ連を掲載する。毎年、１年ずつ更新する。	各ＰＴＡ連合会では県Ｐ研究大会で、提言を担当する分野を所属の単位ＰＴＡへ伝えるとともに大会３年前には、提言単位ＰＴＡを県Ｐ連会長へ報告することになるので協力してほしいと伝える。	所属する郡市ＰＴＡ連合会の提言予定の年度、分野を把握しておく。
３年前	県Ｐ連会長は担当郡市Ｐ連を通して提言単位ＰＴＡ名を把握し、その年の定期総会要項に記載する。 開催地ＰＴＡ連合会は大会準備委員会を発足し、スローガン、研究主題、大会趣旨等を１０月の正副会長会へ起案する。 大会準備委員長は、正副会長会の審議を経たスローガン等を、その年度の最後の理事会までに理事会へ提案し、承認を得る。	所属の単位ＰＴＡの中から、提言にふさわしい活動を実践している単位ＰＴＡに提言を依頼する。 郡市Ｐ連においては、３年前研修を実施し、研究の目的、達成のための手立て（方法）などの研究の方向性について郡市町ＰＴＡ連合会が支援する。 所属の単位ＰＴＡへ当該研究大会の大会スローガン、研究主題、大会趣旨を伝える。	発表を受諾する 発表分野に沿った目標を決めるために、事前アンケート等で現状を分析する。 分野に沿った研究目標（テーマ）を設定する。 スローガン、研究主題、大会趣旨にもとづいて、定めた研究目標（テーマ）へ迫る手立て（方法）と工夫を立案する。
２年前	大会準備委員会は会場の選定、大会規模等を正副会長会へ起案する。その後第２回理事会で提案し、承認を得る。 県Ｐ連では、提言予定の単位ＰＴＡへ向けて研修会を開く。研修会は、２年前、１年前の単位ＰＴＡへ向けて案内するが、希望すれば大会３年前の単位ＰＴＡも参加でき	郡市町Ｐ連においては、２年前研修会（中間報告会）を開き、単位ＰＴＡの取り組み状況についてプレゼンテーションを受け、仕上げに向けて研究の質を高めるよう支援する	手立て（方法）と工夫を実践していく。 手立て（方法）が良かったか、中間アンケートで検証する。 郡市町Ｐ連において中間報告会をする。 県Ｐ連が開く提言単位ＰＴＡの研修会に参加し、研究の推進を図る。

	る。		
１年前	大会実行委員会を発足する。県Ｐ連会長は、大会の委任状を送る。 発表年度の県Ｐ連定期総会要項に掲載する案を２月第３回理事会までに作成する。 その案は 11 月までに正副会長会へ上程する。また、並行して郡市（町）別の要請希望人数を起案し上程する。 県Ｐ連は、提言単位ＰＴＡ研修会を開催する。 １月に研究大会引継ぎ会を行う。 ３月までに一次案内を作成し、発表年度の４月初旬に、郡市町Ｐ連を通してすべての単位ＰＴＡへ送る。	１年前研修会（前年度発表会）を開き、市Ｐ連・郡Ｐ連・町Ｐ連をあげて研究の仕上げを支援する。	目標達成へ向けて前年度の中間報告会での助言を基に、いろいろな手立て（方法）を工夫し研究を深める。 郡市町Ｐ連が開く１年前研修会（前年度発表会）で、研究の仕上げについて助言を受ける。
発表年度	大会実行委員長は共催、後援について４月に依頼する。 実行委員会の活動の一例を下記にあげる。 提言者、指導助言者の名簿作成 大会二次案内の作成 （６月下旬～７月初旬） 大会誌の編集 （６月初旬に大会誌研究発表原稿依頼） 大会の運営 次期開催地への引継ぎ	実行委員会との連絡調整を細やかにして、提言単位ＰＴＡの活動を支援する。	５月に提言者名を報告する。８月初旬までには、大会誌原稿を提出する予定で活動を進める。

※一応の目安としての計画です。実情に応じて変更するようにします。

Ⅲ　提言発表単位ＰＴＡへの郡市町Ｐ連の支援

１　郡市町Ｐ連での提言発表単位ＰＴＡへの支援

県Ｐ連総会要項には１０年後までの研究大会開催市Ｐ連と提言郡市Ｐ連が掲載されています。その資料を基に郡市町ＰＴＡ連合会会長は、提言を担当する分野を所属の単位ＰＴＡへ伝えるとともに「大会３年前には、提言発表単位ＰＴＡを県Ｐ連会長へ報告することになるので協力してほしい」と伝えます。

郡市町ＰＴＡ連合会は年間活動の中に、３年前、２年前、１年前の各研修会を計画し、郡市町Ｐ連を挙げて提言発表単位ＰＴＡを支援する体制を作ります。単位ＰＴＡ会長研修会などの通常の会合の中で提言発表について協議する時間を設けるようにすると年間計画に組み込みやすくなります。

２　壱岐市ＰＴＡ連合会の提言発表単位ＰＴＡへの支援例

壱岐市ＰＴＡ連合会は平成２８年度から、提言発表単位ＰＴＡを支える研修会を開いてきました。壱岐市ＰＴＡ連合会発行の市Ｐ連広報紙から、その様子を知ることができます。

資料には、平成２８年度と令和３年度の広報紙から、関連記事を抜粋しています。

県P、九P研究大会提言校事前研修会を開催しました

～あわてないためのパス回し～

事前研修会とは？

本年度より、壱岐市PTA連合会による新しい取組として、県P大会、九P大会で研究発表を行う提言校を対象に三年前より年度別に計画を立て、研究発表に備えるため、研修会を開催しました。

これまでの研究発表後のアンケートや反省事項をもとに、準備不足や発表内容のズレ等で、納得のいく発表ができない状況を解消して、より充実した内容の研究発表をするのが目的です。提言校任せだったこれまでの状況と違い、単Pでの準備、進捗状況について市P連作成のマニュアルに基づいて、確認・反省・修正を行うことで、PTA会員全員の意識を高め、テーマに沿った研究発表ができるように取り組んでいきます。

県P佐世保大会三年前研修会

提言校　石田小学校

七月十二日に三年前研修会を開催しました。研究テーマは「健康・安全・給食」で、三年かけてやるべき大事なことは、次の三点です。

㈠皆が関心を持つような具体的なテーマを決める。

㈡各学校に応じたスタイルで取り組む。

㈢段階を踏んだ活動内容・結果・成果・反省まで報告する。

壱岐市だけでなく県P・九P全体が向上していける大会にするために、より一層連携を深めていき、引き継いでいかなくてはならないと感じた会でした。

県P大村大会二年前研修会

提言校　郷ノ浦中学校

八月二十三日に二年前研修会が開催されました。研究テーマの「広報活動」について協議しました。ただの活動報告とならないように、「PTAとして何を伝えたいのか」・「広報に対する問題点をどう改善していくか」を研究して発表に繋げていけるように、今後は具体的な実施計画に基づく活動を行い、反省・評価して一年前にどのように引き継いでいくかが重要となります。限られた時間の中で活動していくには、PTA会員への周知、協力が必要となります。「みんなでやろう」という意識を強調して活動していくことが大切であると感じた研修会でした。

九P大分大会一年前研修会

提言校　芦辺中学校

九月十四日に一年前研修会が開催されました。研究テーマは「研修・啓発活動」で、発表内容について話し合いを行いました。市P連より「事前研修会の必要性」について説明の後、現在芦辺中学校での取組内容を持ち寄り、今後どのような取組を行うか、また、どのようにしてPTA会員の皆様に周知していくか等議論を重ねました。発表を来年に控えた役員さん達は身の引き締まる研修会になったことと思います。

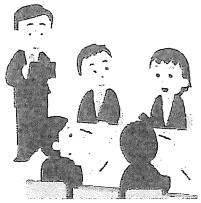
提言校の役員さんの方々も本気になっています。PTA会員みなさんの積極的ご協力をよろしくお願いいたします。

インフォメーション

今後の大会・研修等の予定

壱岐市ＰＴＡ役員研修会

日時：７月１５日（木）19:00～20:30
場所：壱岐島開発総合センター
テーマ：「ＰＴＡって？」
　　「ＰＴＡを楽しくするには？」



長崎県ＰＴＡ連合会会長　山本道雄様をお招きして、ＰＴＡ活動についての講話をしていただきます。みんなで学び合う時間にしましょう。

第６９回日本PTA研究大会・第６６回九州PTA研究大会 北九州大会

日時：８月２１日(土)
場所：西日本総合展示場
スローガン：「じりつ、創造、尊重、調和、そして成長」
～ひらこう未来のとびら・やっぱPTAっちゃ～

第５８回長崎県PTA研究大会 五島大会

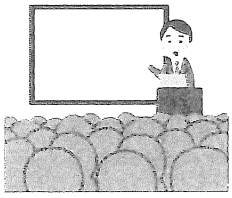
日時：１１月２０日(土)
場所：福江文化会館大ホール
　　勤労福祉センター軽運動室
スローガン：湧き起こせ！親力！！
～広めようコミュニティの輪、高めよう協働する力～
※各学校に参加のお願いをいたします。

壱岐市PTA研究大会

日時：１月２９日（土）　（予定）
場所：壱岐の島ホール　（予定）
会費：無料
※内容を検討して各学校に案内いたします。
　たくさんのご参加をお願いします。

２年前発表校研修会

日時：８月に開催予定
※令和５年度　県P雲仙市大会
　第１分科会において発表される
　盈科小学校PTAの皆様と、発表
　に向けた研修会を行います。



子育て・親育ち講座を開催しませんか？

ながさきファミリープログラム

子育ての不安や悩みを、参加者同士が話し合いながら楽しく学ぶ講座です。進行はファシリテーター（進行役）が行います。

〔テーマ例〕
○生活習慣　○家庭のルール　○しつけ
○上手なほめ方・しかり方　○いじめ
○学力向上　○思春期　　など

＋プラス「家庭教育アドバイザー」

「ながさきファミリープログラム」にアドバイザーによる講話をプラスすることで、より一層効果的な子育て・親育ちの講座となります。進行はファシリテーターが行います。

〔テーマ例〕
○基本的生活習慣（早寝・早起き・朝ごはん）
○食育（子どもの「ごはん」）
○愛着形成（親子の関係づくり）　　など

この話合い活動を各単位ＰＴＡでも活用していただきたいとの思いで、壱岐市ＰＴＡ連合会よりファシリテーターへの活動費補助として、ファシリテーター１人につき、小中学校２，０００円、幼稚園・こども園１，０００円の補助金を計上しています。この補助金の期限は昨年度より２年間とし、２年間で１回の補助となっています。ぜひ、ご活用ください。

なお、詳細については、壱岐市教育委員会社会教育課までお問い合わせください。

Ⅳ　大会規模、運営について

１　大会の規模

大会規模については、県Ｐ連会員数の１％から1.5％とします。ただし前記比率だけではなく、県内各地からの会場への交通アクセスや宿泊が必要となる参加者のための宿泊設備、ウイルス感染症等の考慮をして総合的に判断します。

２　大会宣言に替わる県Ｐ連重点活動目標等の大会誌掲載

大会宣言は行いません。県Ｐ連重点活動目標や活動事項は定期総会要項を通して各単位ＰＴＡへはお知らせと協力依頼をしています。しかし県Ｐ連総会要項は、全会員の手元には残念ながら届きませんから、県Ｐ大会をもって重点活動目標などを会員へ周知する機会とします。

また大会誌には、その年度の県Ｐ連の重点活動目標と活動事項等を掲載します。これにより、県全体のＰＴＡの活動の方向性が同じになるように努めます。

３　来賓、レセプション

(1)　長崎県教育委員会教育長は主催者席に座りますが、県を代表して研究大会への祝辞を述べることとします。

(2)　地元出身県議会議員の招待については、招待するか否かを実行委員が決定します。

地元出身県議への案内は、全員に案内状を送るかあるいは案内状を送らないものとして統一し地元県議の一部にだけ案内を送ることはしません。

(3)　元県Ｐ連会長は３代前まで案内を出すものとします。

(4)　レセプションは催しません。

４　宿泊を伴う県Ｐ研究大会の配慮

(1)　実行委員会は、できるだけ日帰りが可能な企画を立てるようにします。企画にあたっては、実行委員会と県Ｐ連正副会長会で緊密な連携を取り、大会の中で短縮できる工程がないかを研究していきます。

(2)　県Ｐ研究大会はすべての会員の研修の場として催される大会です。各単位ＰＴＡは、できるだけ多くの会員へ県Ｐ大会についてお知らせする工夫をします。研究大会が開かれていることを役員にだけ案内することのないよう努めましょう。「会員がつながり合い、学び合う県Ｐ研究大会」を広報する良い機会とします。

５　宿泊手配について

(1)　宿泊は必要に応じ、単位ＰＴＡあるいは郡市町ＰＴＡ連合会でそれぞれ手配します。

宿泊の必要がある一般参加者は、単位ＰＴＡあるいは郡市町ＰＴＡ連合会で、宿泊の手配をします。宿泊の相談ができる観光協会等の窓口があれば、実行委員会は大会案内（二次案内）で紹介することとします。

(2)　実行委員会は大会運営上必要な参加者について宿泊を手配します。

宿泊手配の対象者は提言者（必要に応じて提言補助者）、指導助言者、県Ｐ連正副会長、県Ｐ連事務局です

６　開会行事について

(1)　開会行事は、次ページの【開会行事ひな型】をもとに、それぞれの実行委員会が開始時刻や会場の構造に合わせて、適宜変更します。

【開会行事ひな型】

時間	項目	場所	担当	進行要領	備考
12:30	**開会のことば**	演台	○○実行委員長	皆様、こんにちは。○○市へようこそお越しくださいました。ただいまより‥‥	演台はあらかじめ中央
12:32	**国歌斉唱** **ＰＴＡの歌**	司会台は下手	司会者 司会者 司会者	※実行委員長の着席を確認後に 国歌の斉唱をいたします。‥‥ **（国歌斉唱）** 続きまして、ＰＴＡの歌を‥‥ **（ＰＴＡの歌　２番まで斉唱し曲はフェードアウト）** ありがとうございました。どうぞ、御着席ください。‥‥	
12:38	**大会会長挨拶**	司会台 演台	司会者 県Ｐ連会長	それでは、主催者を代表いたしまして‥‥ **（挨拶４分間ていど）**	
12:46	**祝辞**	司会台 演台 演台 司会台	司会者 長崎県教育長 開催市市長 司会者	※大会会長が着席するのを確認後 それでは御臨席賜りました御来賓の‥‥、長崎県教育委員会教育長○○様から御祝辞を‥‥ **（祝辞３分間程度）** ありがとうございました。開催市を代表いたしまして歓迎の御祝辞を○○市長○○様お願いいたします。‥‥ **（歓迎の祝辞３分間程度）** ありがとうございました。ただ今頂戴しました祝辞のほかに頂戴いたしました‥‥会場入り口の‥‥	
12:47	**祝辞の紹介**	司会台	司会者	※市長の着席を確認後 ありがとうございました。ただ今頂戴しました祝辞のほかに頂戴いたしました‥‥会場入り口の‥‥	
12:51	**来賓紹介**	司会台	司会者	本来ならば、御臨席賜りました‥‥ （拍手は全員の紹介後に行うことを告げる） 以上の皆様です。盛大な拍手をお願いいたします。	

12:52	**表彰式**	司会台	司会者	続きまして表彰式を行います。‥‥ はじめに優良ＰＴＡとして‥‥ ○○市立○○小学校ＰＴＡ 以上○団体です。おめでとうございます。 皆様、盛大な拍手をお願いいたします。 続きまして、個人表彰を受けられる方々を‥‥ 長崎県ＰＴＡ連合会前副会長　○○様 ○○町立○○中学校ＰＴＡ　○○様 以上の皆様です。おめでとうございます。 皆様、盛大な拍手をお願いいたします。 続きまして、長崎県広報紙コンクール入賞単位ＰＴＡの‥‥、拍手は最後にお願いいたします。 ○○市立○○小学校育友会様　　「広報紙名」 ○○町立○○中学校ＰＴＡ様　　「広報紙名」 以上の皆様です。おめでとうございます。 皆様、盛大な拍手をお願いいたします。	
13:06	**被表彰者登壇**	司会台	司会者	ただ今から、賞状の授与を行います。‥‥ （３人の登壇者は、登壇しやすい位置にあらかじめ座席を指定しておく）	スタンドマイクを演台前にセット
	賞状授与	演台前	県Ｐ連会長 県Ｐ連副会長	会長は演題の前の下手側に立つ 副会長は賞状盆を持ち、賞状を会長に渡す。	授与されるものは代表者３名
13:19	**代表謝辞**	演台		代表は演台へ向かい、同時に他の２名は降壇する。 **（謝辞２～３分程度）**	
13:20	**開会行事終了**	司会台	司会者	以上を持ちまして‥‥ ※緞帳が下りた後、来賓降壇。正副会長は来賓を起立して見送る	